

林業教室で自発的な創造により生産力のある林業を考える

1 はじめに

林業教室では社会に入ったばかりの初々しさがある人から、Iターンで林業を始めた人、職場の移動で林政に携わることになった人等、様々な人達が研修されています。

多くの研修生は、大きな組織の流れの中で業務についているので、なかなか自分で地域の課題を見出すことが難しいらしく、世間での一般的に言われている林業の課題をそのまま鵜呑みにしている傾向があるように思われます。

2 林業教室の進め方と役割

林業教室の外部講師の玉井元信州大学教授から、『地域振興は、自分の困っていることを見出すことから出発しなければならない』と助言をいただきました。センターでの集合研修は、林業技術や知識の習得と合わせて、地域振興について課題の解決を具体的なプランづくりの形で、手法や考え方をまとめていきます。また、地域における研修は、身をもって地域の実情を知ること、積極的な研修を行うのに必要な“自分の困っていることは何か”を発見することに欠かせないところです。



(指導林家による柱材の生産研修)

3 研修2年間の総仕上げ

平成7年度専門課程研修生のレポート発表からその要旨を紹介します。

『ヒノキの密植実験林の造成／今現在の大量植栽されているヒノキが将来本当に価値のある木でいるのなら、これからも植えて育ててみたい樹種ですが、木曾ヒノキの様に有名でないからには、他と少しでも何か違った特色を持てる木にしてみたいと思い、小面積で実験してみようと思いました。このことに、もう一人賛成して手伝ってくれる友人もいて、地拵をしたのですが一から始めるということや、自分の手で林にするという面白さが感じられ、まだ始めたばかりですが、今から成長したヒノキを思い浮かべたりして、とても楽しいです。もっと大勢の仲間であればと思っています。』

『もっと他の団体とつながりをもつべき／椎茸栽培をしている人、南アルプス村、宿泊施設である仙流荘、農協、森林組合、これらが密になって販売していくことができれば良いと思います。特産展もあちこちで聞かれているので、こまめに参加させて頂くことができれば、村の発展にもつながってくると思います。人が来ないなら人の居る所へ出向いていく必要性があると感じました。』

『暗いイメージを解消していく為に／林業というものに係わっている私達が前向きにやっていかなければいけないと思います。利益のためだけではない、楽しみながら出来る林業というものを考えなければいけないと思います。』

『林業機械化を理解する／多様な生産搬出手段をもつことができればよいと考えます。高性能林業機械は安いものではなく、その機械を十分活用できるか、その地域の人達にどれだけ理解してもらえるのか、機械の種類や使い方も地域の人と勉強し、力を合わせて事業に取り組むことで地域が一体となった山林・林業経営になると考えます。』

『オリエンテーリングの特徴を生かす／オリエン

テーリングは、短時間で手軽に自然を楽しみたい人々に合っていると思います。その特徴を生かしエリアに合ったテーマでコースをつくり、森林に親しむ機会を提供しながら森林を解説したいと考えます。』

『険しく深い谷あいの自然を生かす／町民がもっと山へ興味をもってもらうために、天然林の紅葉の景色を生かした育成天然林施業のモデル林を考えていきたいと思います。』

4 林業士認定委員会におけるレポート発表と面接から～委員の意見要約～

『良質な郷土樹種カラマツが存在する町だからカラマツのことも考えていってほしい。それが収益がでることによって住民の森林に対する結び付きが生まれる。地域の林業士と協力し合う姿勢をもって頑張ってもらいたい。』

『山が暗くて危険というのが気になった。自分でやってみる姿勢を延ばしてほしい。地域で主流となり自信をもって行動してほしい。』

『理想に向かって頑張ってもらいたい。』

『特産で長野県の一人者になってほしい。材料の探し方や加工の仕方を学んでほしい。夢があってよい。キノコ振興会の研修会もあるので先頭になって出席してほしい。』

『自然を見つめ、森林を見る目を養い、自然を生かす方法を学習してほしい。』

『人前に出てはこないが、地域でしっかり山づくりをしている人がいるので、探して勉強してほしい。林業の厳しい面の原点を見直し、スタートしてほしい。』など。

認定委員8名からは厳しい意見も出されていましたが、林業士としてやっていこうとする彼等の応援団のようでした。特に、認定委員長の菅原信州大学教授からは、『林業は自分の地域を愛するところから出発しなければいけない、林業を楽しくやっていこうという気持ちはいつまでも忘れないでほしい』と、これから林業を志す彼等に励ましと心得を示してくださいました。

5 おわりに

日本の産業も高度な生産性の追及の結果、世界

に誇る先進経済国家を築き上げました。決して資本が豊かな国ではなかったはずですが、日本の人工林の資源も、先人のたゆみない労働生産力のもとに築きあげられました。



(枝打ち研修)

修了生は、自己の利益（やってみようとする自発的な行動から得られる全て）を追及することで、富を創造し、人に報い、家庭や友人、社会に貢献していく林業士として、目的をやり遂げるために、自分は今何をすべきか見出しつつあります。

今後は、林業を志す人の和をより沢山つくり、地域に根差した林業指導者として、益々磨きをかけ活躍されることに期待します。

また、地域では林業を志す仲間として、彼等の活動を実現させる援助と励ましをお願いします。

(指導部 開藤)